

平成25年度宇都宮大学地域連携活動事業

田中正造没後100年記念シンポジウム

田中正造とアジア

2013年12月8日(日)

10時~16時(9時30分開場)

栃木市藤岡遊水池会館

栃木市藤岡町藤岡1788番地

*** 無料 * 定員100名 ***

プログラム

10:00-10:30 開会のあいさつと開催の経緯説明

10:30-11:15 赤上 剛 (渡良瀬川研究会副代表)

「田中正造と戦争—日清戦争支持から軍備全廃論へ—」

11:15-12:00 布川 了 (鉾毒事件田中正造記念館名誉館長)

「田中正造の青春時代と晩年の平等思想」

12:00-13:00 休憩

13:00-14:00 朴 孟洙 (韓国・円光大学校教授/学生福祉処長)

「田中正造と韓国—田中正造と全瑛準の公共的生き方—」

14:00-14:30 丁 貴連 (宇都宮大学国際学部教授)

「田中正造と内村鑑三、そして朝鮮」

14:30-14:45 休憩

14:45-15:45 パネルディスカッション

15:45-16:00 まとめと閉会のあいさつ

司会 高際 澄雄 (宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター長)

主催: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター、宇都宮大学国際学部

後援: 栃木市

スタディーツアー

日 時：2013年(平成25年)12月7日(土)午前10時—午後3時30分

集合場所と時間：東武日光線藤岡駅 9時30分 または 栃木市藤岡町文化会館駐車場 9時45分

見学方法：マイクロバスにより移動

見学地：赤麻寺 → 藤岡台地堀削跡と旧渡良瀬川筋 → 松安寺 → 大沼 → 伊賀袋
→ 排水機跡

募集人数：15名

参加費：無料

その他：昼食及び飲み物は各自用意してください。また雨の場合を考え、雨具も用意してください。

申し込み：11月20日より電話/FAX/メールで、下記連絡先に氏名、住所、電話番号、参加人数、希望集合場所、生年月日(傷害保険加入の為)を教えてください。

先着順(締切 11月30日*但し、定員となり次第締切とさせていただきます。)

連絡先：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター(担当:芳賀)

TEL/FAX 028-649-5228 メール yhaga@miyajm.utsunomiya-u.ac.jp

講師及び司会者紹介

赤上 剛 (あかがみ たけし)

1941年栃木県茂木町生れ。早稲田大学法学部卒。渡良瀬川研究会副代表。

論文「日清戦争前後の田中正造の行動と思想」(『救現』11号所収)、「直訴論の再検討」「田中正造没後100年、3.11事件3年目の課題」(いずれも『田中正造と足尾鉍毒事件研究』14号、16号所収)ほか多数。近刊『田中正造とその周辺』(随想舎)『下野新聞』に「正造の言葉」を4月から10月末まで毎週連載。

朴 孟洙 (ぱく めんす)

1955年生まれ。韓国・円光大学校教授 学生福祉処長。北海道大学大学院文学研究科博士課程修了(文学博士)。1980年代後半より東学および東学農民革命に関する研究を行いつつ、ハンサム運動(生命・環境運動)の指導者として活動。著書『開闢の夢、東アジアをめざめさせる—東学農民革命と帝国日本』『東学農民戦争と日本』訳書『景福宮を占領せよ』ほか韓国語論文多数。

問い合わせ：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

住所：宇都宮市峰町350

TEL/FAX：028-649-5228

メール：yhaga@miyajm.utsunomiya-u.ac.jp

布川 了 (ふかわ さとる)

1925年生まれ。鉍毒事件田中正造記念館名誉館長。

長く足尾鉍毒事件の調査研究に携わり、渡良瀬沿岸のフィールドワークを行う。『田中正造と天皇直訴事件』『田中正造と利根・渡良瀬の流れ』『川俣事件をみる』『増補田中正造たかひの臨終』など著書論文多数。

丁 貴連 (ちよん きりよん)

宇都宮大学国際学部教授。

筑波大学大学院人文社会科学部文芸言語専攻修了(文学博士)。専門領域は比較文学比較文化・日本文学・韓国文学。近刊著書『媒介者としての國木田独歩—ヨーロッパ・日本・韓国』(翰林書房、2014年)。翻訳書『韓国文学はどこから来たのか』(筒井真樹子との共訳、白帝社、2005年)。論文「もう一つの小民史—国木田独歩と日清戦争」(『外国文学』61号、2012年)など。

高際 澄雄 (たかぎわ すみお)

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター長/教授。

専門領域イギリス文化・文学研究。主として、イギリス18世紀文学と文化を研究に従事。現在ヘンデルの歌劇と文学の関係を調査。「ロデリック・ランドムにおける奴隷貿易」(『イギリス18世紀文学研究』開拓社1996)、「ボイスの第2セシリアオードにおける詩と音楽」(『イギリス18世紀文学研究』開拓者2010)など。